



## 一問一答

質問者	掲載ページ	質問事項
吉村 範明 議員	11ページ	▶ 市制80周年に向けて、記憶に残り未来永劫つづいていく周年事業に
片山瞬次郎 議員	12ページ	▶ 幼児教育・保育の無償化を通しての課題について ▶ 認定こども園、保育所などのキッズゾーンについて ▶ 台風などの水害時における課題について
円地 仁志 議員	12ページ	▶ 月別入札件数 ▶ 近年の入札不調、一社入札
宮西 健吉 議員	13ページ	▶ 小松駅東口に「変なホテル」

質問とは、提出議案や報告に対する質疑、市政一般に対する質問を市長や執行機関側に行うものです。そのうち、代表質問は、会派を代表して一括方式で行い、一般質問は議員個人が一括方式と一問一答方式を、通告の際に選択して行うものです。

### 【質問の方法】

#### 一括方式

通告したすべての質問をまとめて行う方式。質問時間は、質問と答弁を合わせて50分以内。再質問は2回まで。

#### 一問一答方式

通告の項目順に質問を一問一答で行う方式。質問時間は、質問と答弁を合わせて50分以内。質問回数の制限はない。



## 意見書ってなに？

意見書とは、地方議会の意見を国の政策に反映させるために、国会や関係行政庁に提出する文書です。



意見書には法的拘束力はありませんが、住民代表である議会の意思として尊重されます。

## 議員提出議案をチェック

議員から提出された議案（意見書）については、可決された意見書を内閣総理大臣をはじめ、関係機関に送付しました。（賛否はP19参照）

- 議案第8号 台湾のTPP（環太平洋パートナーシップ協定）参加を積極的に支援するよう求める意見書
- 議案第9号 持続可能な地域医療提供体制の構築を求める意見書
- 議案第10号 小松白川連絡道路の整備促進を求める意見書

代表質問 会派自民 表 靖二(おもてやすじ) 議員

一括質問

## 栗津診療所について

### ◆来年度の予算編成について

**Q** 収支の見通し及び来年度の予算編成方針について。

**A** 歳入は市税と地方消費税交付金をあわせて市税等で189億円程度を見込んでいます。歳出は、子育て支援等の扶助費が増加し、今年度はすでに100億円を超えているが、来年度は107億円を見込んでいます。市債残高は10年間で200億円の目標を達成し、227億円の減少見込みである。

### ◆小松白川連絡道路について

**Q** 小松白川連絡道路については30年以上の経緯があり、現在期成同盟会も設置をされているが、現在の取り組み状況について。

**A** 途中政治の変遷もあり、なかなか進まない時期もあったが、東海北陸道等の整備により国内観光客やインバウンドも増加し、小松空港の活性化にもつながると考える。災害時の代替道路にもなり重要だ。

**Q** 岐阜・石川にまたがる長大トンネルが必要となってくる他、様々な課題があると思うがいかがお考えか。

**A** 国会議員の方からは「焦点を当てたトンネルの立地場所を決めていきたい、そういう場を国、両県で設けたい」との話があった。国の位置づけでは、県が工事を主体的に行う地域高規格道路ではあるが、資金面・技術面で国の支援が必要である。

### ◆小松バイパスと幸八幡線について

**Q** 小松市の町内会連合会の重点要望として長年、小松バイパスの佐々木ICから八幡IC間の4車線化が挙げられているが、今後の見通しについて。また、八幡ICと幸八幡線の接続が進捗していない。その原因と今後の見通しについて。

**A** 遅くとも北陸新幹線開業までには4車線化をお願いしている。幸八幡線については、工事が困難なところで、補償物件も多いが順次進めている。国道8号線の八幡地区の4車線化にあわせた形で、交通がスムーズに行くよう国と協議している。

### ◆北陸新幹線とインバウンドについて

**Q** 3年後北陸新幹線の小松開業となると、首都圏と北陸を結ぶツアーが容易となり、ますますインバウンド増が考えられるが。

**A** 欧米の旅行者が豪華な旅を好むというデータもあり、富裕層向け旅行企画が大変有効になると考える。小松の魅力である石の文化、北前船の日本遺産、古民家体験など海外発信を図り、便利で魅力的な国際都市こまつを目指していきたい。

### ◆栗津診療所について

**Q** 令和2年1月から栗津診療所の内科については午前診療となることと、主な原因は午後の患者が僅少であること及び医師の流出と聞かれますが、今後、南部地区の内科診療をいかにするのか。

**A** 公立病院の役割を踏まえ、安心・安全な地域医療体制の構築に努めていくとともに、民間の医療体制が充足するときは公立の診療所を運営する必要は少ないと考える。



栗津診療所



代表質問 自民党こまつ 川崎 順次(かわさきじゅんじ) 議員

一括質問

## 令和2年度教育・福祉・災害対策予算の充実を!! そのために大型企業の誘致をはかれ

### ◆令和2年度予算編成について

**Q** 歳入は今年度当初予算よりも8億円の減収を見込んでいる。歳出では人件費が6億円余り増加、扶助費の大幅な増加などが見込まれる。しかし、市としては市民の安心安全のため教育、福祉、災害対策などに積極的に取り組まなければならない。そのために企業誘致を強化促進して歳入増を図っていく必要性が求められている。

**A** バランスのとれた産業構造が大事。高齢化社会では、鉄工機械業のほかにも医療、6次産業、教育、観光の振興など幅広く考える必要がある。

**Q** 扶助費の増加は待たなし。人口知能(AI)の活用を検討しては。

**A** 昨年7月にAIコンシェルジュを導入。1月市民病院での顔認証による受付開始。3月キャッシュレス決済による窓口の効率化を図る予定である。

**Q** 午後8時全館消灯に取り組んではどうか。

**A** 市役所全体でKEMSを推進。施設のデマンド監視や空調管理等により、電気使用量の削減に努めている。

**Q** 市長の公約の外部検証はどうか。外部検証によりムダをなくすことが大事。

**A** 市としては議会からのごのように評価いただけるかが重要で、企業版ふると納税等、外部からいかに評価されるかが大事である。

### ◆小松白川連絡道路について

**Q** 東海北陸地方にとって観光・物流面や災害時の代替補完として機能する大変重要な道路。平成20年度のルート帯の検討から何をやってきたのか。

**A** 同盟会新体制後、11月に8市町村の首長ほか総勢35名で要望活動を行った。技術的・資金的に厳しいため、国直轄となるよう働きかけていく。

### ◆並行在来線について

**Q** IRRしかわは地域の足。どのような対応を検討しているか。

**A** 県の試算では金沢以東の開業時は10年間で26億円の赤字と試算したが現在は黒字である。明峰、小松、粟津の3駅では利用者が増えており、今後、観光列車や物販、広告事業等広く検討していく方向になる。

### ◆災害に強いまちづくりについて

**Q** 豪雨をはじめとする災害時の避難所の洪水浸水対策は。監視カメラの設置はどうか。

**A** 1000年に1回の想定最大規模では、水害時に開設する避難所のうち床上浸水が想定される避難所14カ所について2階への垂直退避を行う。国・県では梯川等18カ所にライブ



カメラを設置、市ではアンダーパスや幹線排水路6カ所にライブカメラを設置している。

**Q** 地震による水道管の耐震化は。地震レベル2の耐震化率は。耐震適合率は。

**A** 地震レベル1の水道管の耐震化率は93.2%、基幹管路では100%。加賀平野の地震は震度6弱を想定、耐震性能はレベル1相当であり管路更新においては、全てレベル2を採用している。

### ◆人口減少について

**Q** 安心して産み育てるための対策は。本市の今年の出生数は。

**A** 南部の病児保育ルーム、のしろ児童館の整備、松東地区の保育所統合を行い、子育て環境の充実を図る。出生数は11月末現在742名である。

### ◆小松空港について

**Q** 国際貨物便が減少。国際旅客便だけでなく、国際貨物も増やすべき。小松基地があり防衛産業、航空産業などの誘致をすべき。

**A** 海外の商談会などの施策を推進することで輸出の増加を図る。現在、空港周辺の土地開発を進めており、新たなステージが始まるものと期待している。



竹田 良平(ただりょうへい)議員

一括質問

## 市民大学の魅力アップと 災害への備えについて

◆市民大学の魅力アップにつなげる仕組みについて

Q 第1期および第2期の受講者数は。

A 第1期は19講座492名。第2期は12月5日時点で32講座452名。市内外、また幅広い世代が受講している。

Q 講座で出てきたアイデアや成果について、市政への反映の仕組みは。

A 市では成果発表会に参加、助言を行うとともに、100クラブ活動助成金などの案内を行っている。学びの成果が地域活動やボランティア活動に役立てられている。

Q 市民大学とまちゼミの連携は。

A こまつまちゼミは、市民大学と異なり、商店街を舞台に店主が専門的な情報を無料で教えるもので、来客につなげることを目的として開催されている。

◆災害への備えについて

Q 台風19号の際に避難所として開設された市民センターへの

避難状況は。また、最大収容人数は。

A 自主避難所を10月12日(土)午前9時に開設、翌13日午前8時に閉鎖した。市民センターでは男性2名、女性6名の合計8名、うち高齢者4名が利用した。地域防災計画では最大562名の利用を見込む。ただし、1階のはつらつセンター部分を含めると計719名が利用可能である。

Q 避難所用物資の平時の備蓄状況および災害時の輸送方法は。

A 指定避難所の備蓄品として、衛生用品・健康管理用品(救急セット)や発電機などを常備。食料品などは、市役所倉庫で一括して備蓄。強化避難所と合わせ、食料2万2,000食、水6万6,000ℓを常備。避難所開設時に必要なものは市の配達班が届ける。

Q 物資の買い足しや買い替えは今後のどのように行われていくのか。

A 備蓄品は使用期限に応じて買い替える。非常食はよりおいしく、調理しやすい商品へと見直しを図り、避難者にとってよりよい環境づくりを進めていく。



岡山 晃宏(おかやまあきひろ)議員

一括質問

## 障がい者などのスポーツについて

◆参加しやすい環境について

Q 障がい者スポーツは様々な啓発活動を通して理解が広がってきたが、実際に障がい者などが参加するには壁がある。参加しやすい環境を作るにはどうしたらよいか。

A 小松市でいくつもの障がい者スポーツ大会が開催されている。市では「こまつやさしいまち推進プラン」を策定。福祉団体と協力してバリアフリーマップなど作成している。障がい者スポーツ用具も独自保有しており、福祉・スポーツ・市民共創の各分野がうまくマッチングするよう進めていく。

◆継続したスポーツ参加について

Q 障がい者などが健康に生きがいを持ってスポーツに取り組めるような大会やスポーツ教室の開催をしてはどうか。

A 指導者養成のため、「スポーツ指導員養成講習会」などを実施。新たなスポーツや施設の提案をいただき、共生社会を喜び合えるやさしいまちづくりを進めていく。

◆障がい者や高齢者が使いやすい競技施設について

Q 障がい者や高齢者がプレーしやすいため、多目的トイレなど改善しているが、現在ある体育館では車いすでも2階に行けない。改善はできないか。

A 新たにスポーツ施設を建設する際には全てバリアフリー化を行う。古い施設であってもいろんな使い方ができる。施設の使い方についてもお考えいただきたい。

◆『訪れてみたい日本のアニメ聖地』の選定について

Q 小松基地や小松市を舞台とするアニメ「ガールィ・エアフォース」が『訪れてみたい日本のアニメ聖地』に選定された。選定を機に国内外の観光客を呼び込むための企画はあるか。

A アニメツーリズム協会から提案があり、スタンプラリーや聖地宿泊プランなどを実施した。今後、インバウンド向け聖地巡礼ツアーを検討していく。